

ぎんれいゆ会

平成三十年四月

国生みの島に笠雲涅槃西風

主幸 細野恵久 福祉三期

太極拳握り放つや木の芽風

増田和子 食文一期

今翔ちし園を初蝶ふり向かず

改正節夫 国際三期

窯出しの貫乳音や別れ霜

三枝邦光 美工五期

琉球の朱の列柱風光る

國永靖子 音文六期

同姓の兵墓が七基花は五分

猿橋二三雄 福祉八期

食うて寝て酔生夢死の喜寿長閑

加藤善巳 美工八期

禿頭も逆髪となる春疾風

太田 實 国際十期

書道展いで強東風のまちを歩く

大下絹子 国際十五期

春光や屋台にぎわすいちご苗

中村建生 国際十五期

春荒れや傘は背中 of 楽器へと

藤本武子 国際十五期

風光る媪翁の太極拳

山下 進 国際十五期

煎餅によりりと寄り孕み鹿

許斐國照 食文十五期

賑やかに声張り上げて燕来る

小淵政子 健福十六期

掌に載せて豆腐屋の切る春の水

兼清久子 健福十七期

白木蓮ほのかに紅の透けて見ゆ

宮本公子 健福十七期

清明ぞいつまでスマノ顔上げよ

沖本无辺子 国際十七期

咲きほこる花を支えて幹虚ろ

香春早苗 国際十七期

花の雨猿ぼぼ吊るす軒の下

仲田慎輔 国際十七期

花筵お伴は妣の遊山箱

中村富美子 国際十七期

白木蓮ほのかに紅の透けて見ゆ

宮本眞貴子 国際十七期

語らひの尽きぬ足湯の日永かな

小栗恭子 健福十八期

算木積の支える櫓養花

潮江敏弘 健福十八期

初蝶や朝の光に生まれたる

野見山剛 健福十八期

春疾風さがり又まえ甲子園

大山吉春 国際十八期

人生の門出を祝ふ花の雲

今井義和 美工二十期

早乙女の足に崩るる逆さ富士

尾崎育久

美文二十一期

ポルドーへ思ひ馳せたる桜東風

黒木早苗

食文二十一期

上げた足何処に置こうか土筆採り

宮脇暁美

食文二十一期

髪なびきランドセル揺する春の風

藤川敏子

国際二十二期

病み猫のぼつり一声春の闇

日種 晃

生環二十二期

第二百四十八回ぎんれい句会（四月十三日開催）より